

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポルケ谷九〇四 電話(03)3337714649 FAX(03)329915367  
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No 1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

教養教育までマニユアル化

滝野 忠……………2

笑止なり中教審答申

これじゃイチロー君が可哀想

編集部……………3

― ブッシュと小泉 ―

始まった魔女狩り裁判!

国労稚内闘争団……………5

― 処分ありきの査問委員会設置は国労にとって一利なし! ―

小さいけれど大きな旗揚げ

NTT関連合同労働組合……………6

― 西日本NTT関連合同労働組合結成 ―

資料 結成宣言(二〇〇二年二月一七日)

― 本当の労働組合構築をめざす ―

……………8

アフガン、中東問題を学ぶ

……………8

― 森戸幸次氏むかえ講演会 ―

自治 労働臨時大会

……………9

― 再生の道はこれから ―

「ひょうごヘルパーユニオン準備会」スタート 在宅介護ネットワーク……………11

市町村合併は文化、歴史を奪う

中川 功……………13

読者からのおたより……………13

編集部だより……………10

# 刊 旬 社 会 通 信

NO. 829

二〇〇二年三月一日号

二〇〇二年三月二日発行  
(毎月一日・二日・三日三回発行)

# 教養教育までマニユアル化

笑止なり 中 教 審 答 申

中央教育審議会（中教審）答申（二月二一日）には苦笑いさせられた。答申は①教養教育、②教員免許制度改革、③大学等における社会人受け入れ推進の三項目からなるが、答申が強調する「地球規模の視野、多元的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に對する力」、「自分の立脚点を確認し、目標を定め、実現に向け主体的に行動する力」などとても涵養（かんよう）できるようには思われない。現状の経済・政治のドタバタ劇がまさにそう。

昨年十一月、文部科学省は中教審に「教育基本法の見直し」と中間的な政策目標である「教育振興基本計画」の新たな立案を諮問した。それは、「教育の現状を見ると、子どもたちの問題行動や不登校などの深刻な状況、社会性や規範意識の稀薄化、過度の画一主義による個性・能力に応じた教育の軽視など教育全般についてさまざまな問題が生じている」との視点から、①時代や社会の変化に対応した教育、②一人ひとりの能力、才能を伸ばし創造性をはぐくむ、③伝統文化の重要性など国家、社会の形成として必要な資質の育成、④家庭―基本的な生活習慣・倫理観・自制心・自立心―の役割が強調されていた。

今度の中教審答申はその延長線上にあることは、「教養」の冒頭に、「我が国の伝統や文化、歴史に對する理解を深めるとともに、異文化やその背景にある宗教を理解する」とあることにも明らかである。

今回の日本の文化・思想の水準は基礎力は時代の要請には合わない、じつくり腰を落ち着け現象を考える作風がなくなってしまったことである。書店にあふれるように並べられるさまざまな書籍にもそれは明らかで、週刊紙は過激な表現とビジュアル化、月刊誌は百科事典化、文庫は風俗化、新書・単行本はハウツー化、政府白書はマンネリ化、そして学術書は売れず高級書店の倒産が相次ぐといった状況だ。

こうした文化・思想状況を憂えぬ文化人は少なくない。しかし、そうした文化人に政府からの誘惑の手がすぐに伸びる。政府の審議会にお入りいただけでないかとのお誘いだ。審議会の委員になれば、政府ご用達のお仁となり、講演料がハネ上がりお座敷がかかる機会もふえ、他人より早く政府資料が手に入り、知ったかぶりができることもある。

今度の答申で笑止なのは教養を年代順にマニユアル化していることであろう。①幼・少年期（十三歳ごろまで）、②青年期（社会に出るまで）、③成人の教養といった具合にである。こんなつたない記述をするなら、むしろ孔子の『泰山に立ちて』の有名な故事「子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順（したが）う。七十にして心の欲する所に従えども矩（のり）を踰（こ）えずと」をひき、自分で考える素材を提供した方がまだ気がきいているように思われる。

教員免許制度改革で免許更新制は見送られたが、「人事管理システムを作り、降格や免職が可能な現行の分限制度的確な運用を行って、指導力不足教員を教壇に立たせないようにする」との抽象的だけに、どうにでも運用できる一項目が盛り込まれていることは、公務員制度改革における「不適格公務員」と同じである。

（滝野 忠）

# これじやイチロー君が可哀想

— ブッシュと小泉 —

## ブッシュの商品は「戦争」

「わが国は戦時下にある」。ブッシュが一月末おこなった一般教書演説、日本にあてはめれば総理大臣の施政方針演説の冒頭の一節である。針ねずみのように武装したブッシュは、「われわれはすべての選択肢を排除していない」と、日本に戦争をもちこむためにやってきた。そして、こう述べた。

「アフガンでは、アルカイダとタリバーンが隠れている。ビンラディンについては、どこにいるのかわからない。アルカイダのメンバーは、ひとりひとり追いかけて、全部捕まえるまで米国は行動をやめない。」

アルカイダやタリバーンをかくまっているのが、「悪の枢軸」。だから、「攻撃が必要な場合は単独でも行動する」との意思表明と日本の無条件協力への意思確認こそ、ブッシュ訪問の最大の目的だったのである。

## 小泉は売国奴

アメリカは小泉の性格、精神状況まで分析し、首脳会談に臨んだ。一九日の国会演説では、新渡戸稲造、福沢諭吉をつまみぐいするばかりか、「日本は新しい維新へと船出した」といかに小泉好みの言葉でもち上げた。外交には二つのやり方がある。一つは威嚇すること、もう一つはくすぐることである。経済政策では威嚇し、戦争政策ではくすぐりつけたのが、今回の日米首脳会談の一つの特徴であった。

小泉はブッシュにどう応えたのか。経済政策では「構造改革断行」をオウムのようによく返すだけだったが、「その志や良し」とするブッシュの甘言に、「自信と勇気を与えてくれた」とご満悦だ。今の世界経済最大の波乱要因はアメリカ経済にあるというのに、金融システム安定のために構造改革を進めよ、金融政策をさらに緩和しろと、「破産国家」なみの介入を受けているというのである。

戦争協力ではブッシュ礼賛だ。「大統領の一般教書に感動した。日米共通の価値観共有を実感した」と、まず、『悪の枢軸』は、大統領のテロに対する決意」と、全面的に肯定し、「テロとの戦いでは、日本は米国と共にある」、「テロ根絶の戦いにとって、日本の役割も重要だ」と、「アメリカと協力し断固たち向かう」ことを約束してしまった。アメリカにとって、日本ほど御し易い国は他にないことをあらためて実感させたに違いない。

ブッシュはいま姿の見えぬ敵という「ヤブ」に踏みこんでしまった。アフガンに戦争を仕掛ける直前、「パレスチナ独立国家」建設まで述べたが、中東のパレスチナはイスラエルとパレスチナ人民との間で血みどろの戦争状況となった。アフガン国内では部族・人間間の争いが再燃する兆しを強めているばかりか、大臣が殺され、アメリカのカイライ政権首班の訪独すら中止される事態にいたっている。そして、「悪の枢軸」論で、大陸ヨーロッパ諸国はむろん中近東、アジア諸国からも非難ごうごうの有様である。

## 小泉礼讃

ブッシュは小泉をこれ以上に持ち上げようのないほどにもちあげた。たとえば、「小泉首相のおかげで改革の途上にある。首相は日本のエネルギーと決意を体現した指導者」「総理は何をすべきか知っている」「彼のことは親友だと思っている」というようにである。きわめつけは、「首相は、米国の大リーグで人気者となったイチローのようだ。首相なら、与えられたどんな球でも打ち崩すことができる」とまでしゃべってみせたことである。

これではイチローがあまりにも可哀想といふべきだろう。ブッシュの投げる球は戦争政策という直球一本。どんな球がくるかを考える必要もない。だが、ブッシュは小泉よ、おまえの打ち安い球を投げてやる、しつかりホームランをかつとばせと激励するのである。

小泉のブッシュ追隨には恥ずかしくて涙が出る。他方のブッシュには涙が出るほど嬉しいものだ。だから「日本ほど(対テロ戦争に)堅固な支持をいただいている国はない」「日本は米国の前方展開部隊に対して手厚い保護を与え、アジアの安定に貢献している」「日本は最も強力な同盟国、友好国」と述べ、「悪の枢軸」への新たな戦争政策にも全面協力をとこう語って恥じることもない。「われわれのコミットメントはアフガニスタンにとどまらない。歴史は米国に自由を守るための機会を与えた。機会をとらえて行動に移す」と。

### 株式市場は反乱

ブッシュ訪日の目的は四つ。一つは日米同盟をさらに強化すること、二つはその観点からアメリカの戦争政策への協力をとりつけること、三つはソ連邦崩壊から十年たつて「冷戦」の構造が残る朝鮮半島、台湾海峡を中心とするアジア政策の戦略的要としての日本列島の有事即応体制を完備すること、四つは日本経済のデフレからの脱却を促すことである。小泉はブッシュのカイライとして、ブッシュを満足させた。しかし、株価は「反乱」した。ブッシュ来日までは上げつづけた株価も、ブッシュ離日と同時に急降下し、二〇日には再び一万円を割り込んだ。さらに混乱は国会にまで押し寄せている。マキコとムネオの国会のワイドショー化である。ムネオは新しい証拠に青くなり、マキコは「小泉首相こそ抵抗勢力」とケンカ状をたたきつける。そして当事者の小泉君は「ぼくも抵抗勢力にされちゃった」と嘆いてみせる。

### 複雑怪奇な朝鮮半島情勢

ブッシュは韓国へ、そして中国へと飛んだ。韓国では朝鮮民主主義人民共和国を口をきわめて批判し、金大中と韓国の国民が推進する「太陽政策」をけん制する。中国はもっと複雑だ。中国は世界の大国として雄飛しつつある。しかし、二〇年にわたる高度成長は内にゆがみを深めている。その発展は外資にたよっている。外資の導入が止まれば中国経済は一挙に急降下する。だから、中国は「外交は経済なり」とアメリカに柔軟に対応する。他方、アメリカは中国を怒らせることを恐れる。中国経済に異変を起こすことは、それは世界経済を世界恐慌に引きづりこみ、政治を複雑化することになるからだ。

アメリカにとって、こうして、中国からテロ対策での協力をとりつけることが最大の眼目となる。このため、ブッシュは中国にはいいたいこともいえない。アフガニスタン情勢の今後の推移と中東問題がこれからのアジア情勢、ひいては世界の動きの焦点となる。

なお、この項については前号の二つの論評「『死に体』小泉内閣に本性あらわ」、「ブッシュのアメリカは戦争国家へ」を参照していただきたい。

(編集部)

# 始まった魔女狩り裁判！

―処分ありきの査問委員会設置は国労にとって一利なし！―

## 査問委員会は規約通りか？

二月三日に「一部闘争団」に対する処分を行なう査問委員会の設置が確認されましたが、本部は二月三日の中央執行委員会で、査問委員会設置を決定したそうです。そして、同日付の本部指令五〇号で本部は、地方代表査問委員の選出の指令を発していますが、よく考えるとおかしい話です。

国労の査問委員会規則第五条では、査問委員の選出について「委員は、大会または中央委員会で決める」となっています。この規約から言えば二月三日の中央委員会で委員が決定されていなければなりません。しかし、中央委員会では決定せずに、中央執行委員会が指令を発して決めています。これは、規約に沿った措置なのかどうか、疑問が湧いてきます。本部が中央委員会での査問委員会の討論を嫌ったとしたら意図的です。

また、指令では査問委員について「六エリア本部より一名」「本部副委員長・書記長」ということになっています。規約では、査問委員の構成については具体的にふれていませんが、委員の構成がエリアの代表となると非常にきな臭さが匂ってきます。ましてや本部執行部からは、あの寺内書記長です。

## これでは公正な判断はなし！

査問委員会規則第三条では、「委員会は、一切の感情を超越して徹底的に真相を調査し、公正な判断をして、これを大会に答申する」となっています。

この間、北海道・九州をはじめとして、すべてのエリア本部は本部方針に賛成で、本部の「四党合意」による路線変更・後退についても盲従しているのが現状です。寺内書記長にいたっては、自分自身も闘争団のくせに、解雇者としての意地もプライドも投げ捨て、首を切った相手に魂までも売り渡し、記者会見でははじめから「処分ありき」でいきまいてた人間です。そんな奴らに「公正な判断」ができるはずはありません。ですから、この査問委員会では、「公正な判断」を期待できません。期待どころか、「闘争団を切り捨てる」査問委員会以上の何ものでもありません。

## 処分は国労の未来を閉ざす！

国労本部は、闘争団を切ってしまうとしていっているのでしょいか。

「四党合意」による国労つぶし・国労解体を阻止し、ゼロ回答を出させないようにしているのは、国労の中に確固とした反対勢力があるからです。こうした反対勢力を国労が切り捨てたとしたらどうなるでしょうか。後は、敵のやりたい放題となります。国労が反対勢力を切り捨てた後は、敵の視点は闘う闘争団に移ってきます。自ら牙を抜いた国労については、そのまま放り出して自滅を待つか、超低レベルの解決案で一気に処理するか、どちらかです。途中には、前中執の新井が言っていた第二グループが現れるでしょう。どちらにしても厳しい結果が待ち受けています。

本部は破綻した「四党合意」にしがみついている場合ではありません。今ならまだ間に合います。本来の闘いに戻るべきです。どんなことがあるかと、反対派を排除する処分は行なうべきではありません。反対意見があつてこそ民主主義が保たれます。反対派を切れ

ば、独裁政治が始まります。恐怖政治化かも知れません。どうかして、組合員一人一人が主人公となる労働組合運動を取り戻さなければなりません。しかし、自らの保身に走っている本部役員には、この声は届かないでしょう。

処分にひるむことはない！

今回の査問委員会の設置・処分は、脅しかも知れませんが本当かも知れません。ですが、今までの本部の対応は、組合民主主義をないがしろにした「何でもあり」ですから、処分は行なってくるでしょう。そうなれば、私たちとしても本部を相手に訴訟を起こすことになるでしょう。労働組合が組合員から訴えられることは悲しむべきことですが、仕方ありません。

いつかの道本部大会で、ある代議員が「我々の首を切った改革法の承認は、闘争団の切り捨てであり、全連の四・二八と同じだ」という発言を行ないましたが、当時の寺内道本部委員長は「仲間を切り捨てるなどとは仲間の討論ではない」とはき捨てましたが、補強案から続く「四党合意」までの一連の動きは、まさしく、かつての全連本部が行なって裁判で負けた四・二八問題と本質は同じです。それは、解決を装いながらの仲間の切り捨てです。

### 地区家族会新年会を開催

二月二日、稚内地区家族会の新年会が開催され、組合員・家族合わせて二三名が参加し、ゲームに抽選会にと楽しいひと時を過ごしました。家族会の新年会が開催されるのは久しぶりとあって、当日は地本家族会の藤保会長も来賓として、音威子府から激励に駆けつけました。

家族会の新年会は一七時開催と、少し遅い始まりとなりましたが、国労稚内地区協議会議長の挨拶の後、藤保会長から、「四党合意の問題などで、闘いはなかなか進まない状況ですが、全員で頑張りましょう」という挨拶を受け開始されました。

交流会では、参加した家族の自己紹介がおこなわれ、その後、赤川さんの司会で、ビンゴゲーム・ジェスチャーゲームなどが展開し、楽しいひと時を過ごしました。会場は飲み放題・食べ放題で時間制限がありました。大いに賑わった新年会も、今回のお願いで時間を延長してもらおうという場面もありました。大いに賑わった新年会も、今回の支部大会で書記長に選出され藤谷副団長の乾杯で終え、家族はゲームの景品を抱え、満面の笑顔で、それぞれの家路につきました。

解雇撤回・J R 復帰を勝ち取るため、あらゆる困難を排除し国鉄闘争に勝利するため、鉄建公団訴訟をはじめとした闘いに全力をあげよう。

『とうそうだん・わっかないニュース』No.二五六(二〇〇二年二月一五日)

## 小さいけれど大きな旗揚げ

―西日本NTT関連合同労働組合結成―

NTTは労働組合と昨年一〇月、次のような提案を締結した。

1、県別に新設する販売業務や一六などの営業窓口などのフロント業務を行うサービス会社と、設備オペレーション、一一三、ME会社の行っている設備保守の業務を行う県別のME系列の子会社(MES)へ業務をアウトソーシング(OS)する。OS会社は二

〇〇二年五月一日に設立。

2、社員は次の三つの雇用を選択する。

① 六〇歳未満型 N T Tの企画戦略・グループマネージメント、顧客サービス管理、設備構築サービス開発などに従事し、現行の給与制度の通用で六〇歳まで勤務。ただし勤務地を問わず成果・業績に応じて高い収入を追求する社員。

② 六〇歳以降充実型 五〇歳の年度末でN T Tを退社し五十一歳からO S会社に再雇用で六〇歳まで従事し、六〇歳で退職。契約社員として年金の受給年齢に合わせ六五歳まで最高雇用。

ただしO S会社の賃金は徳島では七〇%。減った三〇%については激変緩和措置として減額された総額の最高六〇%を契約社員の間に受け取る。

③ 一時金型 充実型と同じだが、激変緩和措置を一時金として最高五〇%受け取る。3、五〇歳以下のものは、O S会社を希望するものは退職し再雇用。ただし充実型のみ。再雇用を希望しないものは在籍出向としてO S会社に移行。ただし在籍出向の期間は勤務地の希望は聞かない。

これがN T Tの五〇歳停年制十一万人合理化の概要である。

N T T労組がこの合理化を飲んだのは、東西会社の財務悪化と持ち株会社が赤字を補填できるのは今年度限りであり、東西会社単独での黒字化はできないと判断したものであるし、N T Tのあり方の見直しが国会で議論され政治的圧力が強まる恐れが十分あるからである。山場には「白紙撤回もある」といつていたが、激変緩和措置を二一〇%上積みさせて妥結してしまった。

こういったことが背景に、二〇〇一年十二月の希望退職の募集では、全国で八〇〇〇人。徳島でも一二〇〇人の応募があり「退職するなら条件のいい今のうち」といった気分が職場で蔓延しており、従来の仕事がなくなり畑違いの仕事を押し付けられ、相談する人も励ましあう人もいないのが現状である。

O S会社の労働条件はとりあえず持ち込みとなっているが、資本金などはまだ具体化されていない。三割の賃金減で年収が二〇〇万円以上も落ち、ベースアップも見込めない。特別一時金についても今年から評価制度が導入され、冬二・六ヶ月で妥結しているもの、六割がC評価で〇・一ヶ月程度(一〇万円)は下がり、D評価だと七五%しかない。組合はD評価になるのは長期休職者だけといていたが、関東では「マイラインを取ってこない」「チャレンジシートを書かない」ということでDを受ける人がでてしまった。会社のことやことを聞かないと「差別するぞ」と脅しである。またN T T本体に残る満了型を選べば、勤務地や職種がどうなるかわからないのと同時に、より一層の成果競争に巻き込まれ、早期退職を迫られる恐れ十分である。

労働組合は職場の組合員の働かされ方に関心を持たず、希望退職の多く出る職場の労働条件を聞けば「辞める者の希望である」と聞き直っている。こうした組合の現状に組合員の不満は大きいものがあり「いつ組合を辞めるか」といったことが職場で話されるが、なかなか一歩を踏み出せないのが現状である。

そんな中で「今の組合ではだめだ」と東京でN T T労組を脱退する人が出てきており、新しい労働組合を作ろうと準備が始まっている。そして二月十七日に西日本でも「N T T関連合同労働組合」を立ち上げた。まだまだ少ない人員ではあるが、本当の労働組合再構築をしなければならぬと思っている。

◇資料 結成宣言(二〇〇二年二月一七日)◇  
本 当 の 労 働 組 合 構 築 を め ざ す

私たちはここに、「西日本NNTT関連合同労働組合」の結成を高らかに宣言します。  
「西日本NNTT関連合同労働組合」は、全国のNNTTグループに働く仲間たち、そして全国でNNTT十一万人首切り合理化と闘い、支援をいただいている労働者・市民の皆さんとともに創りあげていく労働組合です。

日本の財界・政府・企業は、「新時代の日本の経営」を標榜し、「構造改革」と称して、「今は痛みを伴っているが、改革を成し遂げれば明るい未来がやってくる」と幻想をふりまきながら、実際には大量首切り、大幅賃下げを実行しています。

とりわけNNTTは、「多様なライフスタイルに応える」ふりをして、十一万人にも及ぶ大量のNNTTに働く仲間に、「退職」を自らの意志として選択させ、明日をも知れぬアウトソーシング会社に追いやり、多くの働く仲間の生活を、夢も希望も打ち砕いています。「退職金はローン返済で消えてしまう」「二割減の賃金では生活できず、退職金をとりくずして生活せざるを得ない」「子供の県外の大学進学を夢をあきらめてもらった」など、職場には不満が渦巻いています。また、職場の実態、労働者としての扱われざまから、涙をのんで希望退職に応じた仲間の怨嗟の声が満ちています。

一方、働く仲間の生活を守るために存在するはずのNNTT労働組合は、巨額の原価償却費、会社の膨大な内部留保に何らのメスを入れることなく、「赤字だからしかたがない」と会社の言い分を鵜呑みにし、「日本型ワークシェアリングの完成だ」と、組合員への退職強要・賃下げを容認するしまつです。そして、この動きを批判する組合員に対して、統制処分を通告しているのです。今やNNTT労働組合は、名前は労働組合であっても、労働組合としての機能を失い、会社の機構の一部になつてしまつていきます。

私たちは忘れません。共済メニユー「ひろがり」の掛け金を組合員に無断で解約し、先物取引に引き込んで巨額の損失を作りだしたことを。

私たちは知っています。その穴埋めに、組合員の共有財産であるストライキ資金を、組合員に無断で担保にし労金から借入れるという裏切りを働いたのは誰かを。

NNTTの合理化、労働者の権利と生活破壊は、今後さらに強まることに疑問の余地はありません。私たちは、こんにち職場に組合員の利益を守り闘う労働組合が事実上なくなっている現状を憂うものです。NNTTの職場に、組合員を裏切らず、首切り・賃下げに断固反対して闘う労働組合が今こそ必要であると考え、ここに「西日本NNTT関連合同労働組合」結成に踏み切りました。

この労働組合は、今は決して大きなものではありません。NNTTグループ全体からすれば、まさに「小さな旗揚げ」です。しかしこの労働組合は、西日本のNNTTグループに働く仲間の総結集をめざす労働組合です。必ずや多くの仲間の支持を得て、さらに大きく発展していく労働組合であることを確信しています。

安心して働き続けることができる職場を、なんとしても共に創りあげようではありませんか。私たちはその先頭にたつて奮闘する決意です。以上、宣言します。

二〇〇二年二月一七日

西日本NNTT関連合同労働組合結成大会

## アフガン、中東問題を学ぶ

― 森戸幸次氏むかえ講演会 ―

ブッシュ政権の砂漠の保安官的行動(俺が法律だ)は、先住民族を新式銃で制圧し、ならず者に懸賞金をかけ捕らえ、絞首刑にする西部劇の保安官そのものである。

その言動は、九月十一日テロ以降日増しに強まってきている。問題の解決には軍事力がすべてであり、力による征服である。これに無条件で追従している小泉は、砂漠の保安官の助手を積極的目指しているのである。西部劇の保安官との大きな違いは武器が強大になつていふことであり、地域紛争に名を借り、世界をまたに活動の拠点を広げている事である。

常に紛争地城をつくり、軍隊を出動させ、世界の保安官たる地位を確保することにより、アメリカ一國主義の影響力の拡大による資源確保と軍需産業の育成である。これは、世界で始めてのコンピュータが、大砲の弾道計算のために作られたように、軍需産業の開発



による新たな産業基盤の構築である。このことは富の偏在、いわゆる、富の一極集中であり、一方では貧困の増大をもたらすものである。貧困の要因を絶つ事以外に真の解決はないのではないか。

明和町平和展実行委員会（岡安敏雄代表）では、昨年好評だった「平和写真展・戦時食体験」に引き続き、二月二四日『九・一一米同時テロを考える』を主題にした講演会を開催した。準備期間が非常に短かったにもかかわらず、四〇数人の参加者が熱心に先生の話に聞き入った。

講師には明和町出身の中東問題の専門家である、静岡産業大学教授の森戸幸次氏を迎えた。講演のなかでは「テロ戦争はどこまで拡大し、いつ、どのように終るのか？」について、基本用語の解説からはしまり、「テロの定義」「イスラム原理主義の理念と運動」を中心に話された。

米同時テロと報復戦争をどう見るかでは、テロ攻撃↓「反撃」↓「反テロ国際同盟」の形成↓「報復戦争」へと、今後予想される「第二戦線パレスチナ紛争」と「第三戦線イラク」に対して、平和憲法をもつ日本政府のかかわり重視した。九〇分という短い時間での講演会であったが参加者は中東問題について、今後の学習の糧になったと思われる。平和展実行委員では一回の話ではものたりなく、今後も機会をとらえ講演会を開きたいと考えている。

(T)

## 自治労臨時大会

― 再生の道はこれから ―

自治労は一月三一日から二日間、不祥事問題に対処し、自治労再生のスタートとすることを目的に臨時大会を開いた。大会のテーマは①昨年末の中央委員会で設置された真相究明委員会報告、②究明委員会報告にもとづき作成された自治労再生プログラム、再生プログラムの一部改正・新設、③二〇〇二年春闘方針および当面の闘争方針、④人事である。

真相究明委報告で改めて考えさせられたことは、不祥事の範囲がきわめて広いことだ。項目として①保険代理店、②共済事業と納税、③不正経理、④右翼対策、⑤財政局長管理口座・事務局長管理口座、⑥二〇億円を含む借入金問題等があり、不祥事が「構造的」であることを示していることだ。

究明委報告は「最大の特徴的問題は『簿外』の債務や口座が内部に存在していたこと」であるとして、「まず検証さるべきは、運動方針にのっとった自治労運動の推進過程と、『簿外債務』『簿外口座』との関連の問題」と指摘している。そして、この背景に①労戦再編成時の「組織対策費」、②政治とのかかわり、③一般会計が赤字決算という財政状況を上げ、組織対策、政治運動は必要な取り組みであったが、「問題」として「これらの活動を支えるべき財政の実態が運動に追いついていたのか、あるいは簿外口座・借財に頼ってきたように、『運動のため』という言葉をもって当然必要とされるべき手続きを怠ってきたのではないか、ということである。そして、簿外処理という作風が不正の温床となったことについて、厳しく総括されなければならない」と結論づける。

昨年末の中央委員会では①不安を通りこし怒りでいっぱい、②地方の意見をくみあげずつきりした説明を、③自治労の原点は現場感覚との視点から「徹底した真相究明」の意見

が出され、そのうえに①膨大な金銭の使途の解明、②責任の明確化と厳正な処分、③執行部は総辞職を等、十五人の中央委員が危機感をあらわにした。

それにはたいし、執行部は①深く受けとめ再生に全力でとりくむ、②総辞職は再生方針にメドをつけてからと答弁した。真相究明委員会に組合員が要望したのは、①資金の流れの解明、②厳正処分、③自治労の真の再生であった。しかし、借入金の三九億円、簿外口座数億円の金の流れはあいまいで、処分についても必ずしも明らかでなく、これで真の再生になるのかとの意見が大会でも相次いだ。

その意見は①真相究明は不十分。まず究明を明確にし次の段階に進むのがスジ、②総辞職こそ責任のとり方、③法的処分をもっときびしく。後藤氏の行為は明確に犯罪・金を返せばすむという問題ではない。④金の流れを明らかに等、というもので真相究明委員会報告が、組合員にとつて必ずしもしつくりしたものではなかったことを示していた。

第一次再生案ではまず借入金約三九億円の返済を最重視し、利息負担を軽減するため、自治労基金（組織存亡の危機に備え七九年から三百億円を目標に組合員一人当たり月額二百円を積み立て。現時点では約二百八十億円）を取りくずし一括返済すること、次に基金の取りくずし分は①不正行為者による損害賠償、②本部役員などから基本給五〜一〇％程度のカンパ、③本部経費の節減などで穴埋めしていくとの考えである。再生プログラムは挙手採決で九六九人の代議員中八六四の賛成で可決された。

こうして「自治労再生プログラム」は可決された。しかし、運動現場には不安が渦を巻いているようである。というのは、借財の処理と関連して組織運動の改革で従来の運動が切り捨てられたり、縮小されるのではないかというのである。

不安を一身に体現したのが現業評議会の人たちで、民間への委託・下請化が猛烈に進行しているなか、「各評議会・横断組織の機能と運営や各種全国集会のあり方についても抜本的に検討する」とあることへの危惧である。このことは、自治労が新綱領を策定中で、その核心が要求・抵抗から参加型の労働運動をめざしていることもかかわるように思われる。

さらに自治労基金のボランティア活動への支援についても、自治労本体、労働運動総体の運動を強めるために支出すべきとの発言が相次いだことも特徴で、これらは今後の自治労運動の路線問題にかかわることが予想される。

## ◇ 編集部 だより ◇

▽旅は生活の一部です。二月は二八日しかないこと忘れ、とんでもない日程を組んでしまいました。九州、四国、北海道、東海、他を二週間もの旅鳥。これまでは、時間に追われるということとはなかったのですが、私も四捨五入すれば六〇歳、「光陰矢の如し」を感じる歳になったということでしょうか。

▽旅の楽しさは、全国各地の読者の声をジカに聞けること。さらに、不況と失業、この十年の構造改革で荒廃する地域の実情を自分の眼でしっかり見、いろんな階層の人の話を聞けることもあります。地域の荒廃は想像以上で、だれもが未来の夢、希望を失っていることが最高の特徴です。

▽自然の破壊もすさまじいものがあります。里山は荒れています。松は九州、中国、近畿、東海では枯死し無残な姿をしめています。そればかりか、竹林が里山を占領しつつあります。日本の自然がすっかり姿・形を変えつつあります。大地震で山崩れが心配。自然も人間も血の涙を流しつつづづけているというのが現代の日本です。

## 「ひょうごヘルパーユニオン準備会」スタート

介護保険制度がスタートしてはや二年、今のままでは、毎月介護保険料だけ払って、いざという時に安心して受けることのできる介護サービスがあるとは限りません。介護サービスをきちんとだれにも保障しようと思えば、介護現場で働く人が安心して働ける状況がなければなりません。在宅介護のサービスを担うヘルパーにも厳しい労働を強いられるのが実情です。

一月十三日、第一回「ひょうごヘルパーユニオン準備会」交流会が総勢十六人の参加で開催されました。ヘルパー七人、ヘルパーになろうとしている人二人、市職員一人、在宅介護ネットワークから二人、あかし地域ユニオン一人、神戸ワーカーズユニオン二人、武庫川ユニオン一人の参加でした。

事前に依頼し、回収していたアンケート結果をもとに職場実態を交流し合うなか、時間がオーバーするほどに盛り上がりました。「ヘルパー消失の危機」という本が出版されているくらい、在宅介護を支える要ともいえるべきヘルパーは厳しい労働環境で働いているのが現状です。その声の一部を紹介しましょう。

### これでは食べていけない

労働条件に関わる問題は、介護保険制度そのものの介護報酬のあり方が現実と合っており、厳しい労働条件を引き起こしています。特に家事援助の介護報酬の低さ（一時間一五三〇円）、交通費や事務費の支給なし、サービスの質の維持に欠かせない研修などの公的な保障がありません。

① 時間給パートや請負の登録ヘルパーが多く時間給八〇〇円〜一二〇〇円程度で収入が低く、自立できる賃金ではない。若い人は他に夜にバイトをして体を壊している人もいる。

利用者が入院したり、ショートステイに行ったりすると仕事が途切れ、収入が安定しない、交通費も支給されないとこもある。

② ヘルパーが感染症に感染する危険や、反対にヘルパーが利用者に損害（介助時の転倒など）を与える危険が常にある。

### ヘルパーは使用人ではない

業務の内容に関する問題についてはホームヘルパーという職業は「高齢者の自立を支える介護のプロ」ですが、社会的な理解がまだまだなく、社会的な地位がたいへん低く様々な問題を引き起こしています。

① 「お掃除の人」「オムツの人」と呼ばれたり、「お金がなくなつた」と疑われたりする。また、利用者ご自分でできることもヘルパーにやらせるなど使用人扱いされる。

② 一人暮らしの痴呆症の方の金銭管理もせざるを得ないが、普段は関わりを拒否している家族が何かのうちに文句を言ってきたら……という不安がある。

③ 自分の家から直接利用者の家に訪問する直行直帰の登録ヘルパーの場合、仕事内容や利用者との関わりなどを気軽に相談できる場があまりないので不安が大きい。

④利用者にかんすること、「こんな風にすればもっと身体が楽になる、生活しやすくなる」と思うこと（便利な福祉用具の利用や部屋の片付け、生活習慣の改善など）も高齢者はなかなか受け入れられず、ストレスが溜まることまある。

### でも、やりがいのある仕事

こんな問題がある中でもヘルパーは、利用者の笑顔や温かい心に触れたときの喜びを糧に一生懸命働いています。こんな話も出ました。もう何年も寝たきりの高齢男性、言葉や反応もあまりありません。それでもヘルパーはいろいろ話しかけながら、体を拭いたり食事のお世話を一生懸命していました。

その日、ヘルパーは事務所のみんなの手作りの小さな貝の布飾りを「お誕生日おめでとうございます」とお渡ししたのです。その方の目から涙がポロポロとこぼれ、「ああ、この人は話せなくても全部分かっていたんだ」とヘルパーは感動しました。二人はしばらく手を握り合って泣いていたそうです。そんなヘルパーが安心して働けるように、十分なサービスが提供できるように手をつないで輪を広げ、少しでも改善できるように話し合っていくことを確認しました。関心のある方はぜひご参加ください。

### 1、ヘルパーとしての不安・悩みについて

①給料があまりにも安い、②交通費などが自己負担である、③移動時間が労働時間にならない、④医療行為を求められる、⑤十分なサービスが提供できない、⑥交通事故・セクハラ・暴力の被害に補償がない、⑦利用者に被害を起したことの責任、⑧感染症にかかる、⑨使用人扱いされる、⑩直行・直帰の場合に相談相手がない、⑪利用者宅での物がなくなる、⑫その他

⑬ヘルパーとしての技術向上や研修、⑭ケアマネ等の資格取得、⑮介護保険制度の見直し、⑯介護報酬の大幅引き上げ、⑰生活できる給料の引き上げ、⑱労働条件・待遇の改善、⑲他の事業所のヘルパーとの交流・親睦、⑳誰でも一人でも加入できる労働組合（ユニオン）づくり、㉑社会的評価・社会的地位の向上、㉒その他

●利用者の方の贈り物のことわりに困る。

●利用者さんより「最後まで来てね」と言われた時、自分の体力および年齢を考え、活動期間がどれだけできるかわからない点、何と返事をして良いか困った。

●神戸市がサービスを民間に丸投げしているの、サービスなどについても不安が大きい。もっと保健婦さんや生活保護世帯担当の福祉部の職員、介護保険課の担当職員等が事業所や利用者にかかわって指導、連携のリーダーシップを発揮し、責任をもってほしい（型どおりの指導ではなく、融通の効く頼りになる相談窓口として）。

●利用者が高齢であり、特定の方を受けている場合は、入・退院の繰り返しでパート収入が安定しない。

●資格を取得していても、資格が認められた金額で支給されていない。

●直行等の場合、移動時間は含まれないし、利用者が入院の場合、穴のあいたままで金額の保障もない。しっかりと常勤化してほしい。

●利用者の方との関係（安全）

●金銭管理で成年後見人制度を利用できるほどではなく、日常、バックアップできるようなシステムの構築

●もっと利用者やヘルパーのぐちを聞き拾い上げてほしい。お金のかからない安心できる老後を。

『在宅介護ネットワーク』

### 第二回「ひょうごヘルパーユニオン準備会」交流会

日時 三月二四日（日）午後二時～四時半

場所 三宮の神戸市勤労会館三〇七号室

## 市町村合併は文化、歴史を奪う

毎日、マスコミはアフガニスタン報道に終始していますが、国内では市町村合併問題が静かに進行しています。国の方針どおり、これが強行されたとしますと、三三三六の自治体が一〇〇〇に統合され、二〇〇〇余の地名が日本地図から消されます。

民俗学者谷川健一氏は『神は細部に宿り給う』（人文書院）のなかで地名について次のように述べています。

「地名はなんのために存在するかという第一義的な問いに答えることは困難である。現代の前に地名があった。さらにその前にも地名があった。新しく加えられた地名もあれば、古くから幾百年、幾千年の間も一向に変わらない地名もまじっている。」

「このように私たちの意志によって、動かすことのできない地名に対して、私たちはなぜ奥深い感情にゆさぶられるのだろうか。受けとるほかないものに、なぜかけがえなく、心が魅かれるのであろうか。それは土地の名をとおして、私たちと私たちの祖先がつながっているからではないか。土地の名は過去と現在をつなぐ伝導体の役割を果たしている。地名をとおして、私たちは先人たちの営為のなにかの感触をもつのである。それは一つの土地に生きかわり死にかわりしたというだけではない。おなじ土地の名をおなじように呼んだ人たちがかつてあり、今もあるということが重要なのである。いわは、地名は共同感情を惹起させる力をもっている。」

道庁の合併案では、私が住む留辺蘂（るべしべ）町は端野・訓子府・置戸の三町とともに、北見市に合併させるといふものです。これは香川県の面積を上まわる自治体の出現となり、谷川氏のいう「共同体感情を惹起させる力」を失わせます。

また、市町村合併はそれぞれの自治体の個性ある文化と固有の歴史を奪います。ささやかながら、民衆史の分野で歴史を志してきた者として、「ルベシベ」―アイヌ語で「峠を越えたところ」―の地名を守るため、微力を尽したいと思います。（中川 功）

### ◇ 読者からのおたより ◇

変な陽気 今年の北海道は変な天気です。二月上旬に三月並の気温になったり、暖かくなったと思ったら、いきなり吹雪だします。北海道の人は、感覚的に「何月何日ごろはこういう気候」というのを持っていますが、今年の冬は信用なりません。ふきのとうが出るまでは安心して春だとはいえない状況です。「春だ春」と騒いでいる国労本部のようです。（稚内・I）

編集部より 二月中旬、十勝地方、道央にうかがった時もそうでした。帯広では「十勝晴れ」、札幌では「雨」。政治状況も異常事態に突入です。それも震源地は北海道。世の中、おもしろくなる兆しはしません。さらにご健闘を。

オカシイ 最近の社会はオカシイ。新しい社会を何とかしなければと思うこの頃です。そのために本音のご指導を。（神奈川・K）

編集部より 社会の規範がすっかり崩れてしまいました。新しい規範づくりはまず労働運動再建、人権の確立です。

ジャーナリズム 大学一年のとき、冷やかして中曽根のブレンだった故・佐藤誠三郎氏のゼミに出ていて、「日本には『ニューヨーク・タイムズ』や『ワシントン・ポスト』、『ルモンド』のような高級紙がない。唯一あるのは経済面での『日経』くらいだ」とおっしゃっていましたがそう思いません。ニューヨーク・タイムズには「社会の木鐸」という言葉がそのままではまる。（東京・H）

編集部より 私も同感。スペインには「エル・パイス」という新聞がありますが、まさに高級紙。日本の全国紙はだんだん芸能紙、スポーツ紙に占領されてきたようです。

民主主義がない 町議会は「合併やむなし。早く、どこと合併するのか。急ごう」の雰囲気の中で、一人一人合併がなぜ必要？なぜ財政難になったのか？合併論議には住民が存在していない、財政面だけの話ではないか」と、つっぱらっています。本当に民主主義がないですね。「強制はしない」と国は一応言っているのだから、自分たちで町を作ればいいんじゃないの！」（町会議員・A）

編集部より 地方を歩いて市町村合併のすさまじい動きを実感します。地方分権といい市町村合併といい、上から進められるものどどこに民主主義があるのと感じさせられます。中央集権化がさらに進むだけじゃないのと。

「西日本NTT関連合同労組」結成 私たちは「本体に残れば全国配転」というおどし付きで、働くものにとっては選択肢のない首切り・賃下げ攻撃を容認するNTT労働組合では、労働者の生活破壊を防ぐことはできないと判断し、今こそNTTグループの職場に本物の労働組合をつくろうと、「西日本NTT関連合同労働組合」を結成し、別紙（本誌参照）のとおり結成宣言を發しました。日本労働運動の消滅の危機が叫ばれる中、労働者の首切り・賃下げに反対して闘い、労働者を裏切ることのない労働運動が求められていると考えます。私たちの旗上げはたいへん小さなものですが、必ずや多くの仲間の支持を得て大きく発展すると確信しています。（西日本NTT関連合同労組）

編集部より NTT東では五十一歳以上の労働者の九七%が希望退職か子会社への転籍を選択したとのこと。新労組の発展に全力尽くして。本物の労働運動つくろうよ。

入院？ 当分の間、休ませていただきます。「身心」。考え、行動することができません。いま一番は「笑の世界」、「無の世界」があつてます。ゴメン！

編集部より Aさんらしくもなく弱気ですね。一日も早い氣力の充実、祈るや切。（静岡・A）

「国労冬物語」上映会 「人間らしく生きよう」は二〇〇一年十一月劇場公開されて、大感動の渦を巻き起こした。リストラの世の中に勇氣と希望を与える作品として、雇用不安に直面する人々や労働組合を知らない若者から圧倒的な共感が寄せられている。一九八七年国鉄の分割民営化は、現代リストラの原点だった。当局との妥協を拒否した国労組合員に、容赦ない首切りと差別が襲ってきた。この作品を求めてきた千四十七人と鉄道員とその家族のドキュメント。敗北に次ぐ敗北、そして労組幹部の裏切り。しかし、それでもプライドを捨てず生きようとする彼らの姿は、荒廃する日本社会の中で一筋の光を放つ。（奈良県労働者交流協議会）

編集部より この映画、いま若者に共感を呼んでいるとか。国鉄闘争支援のみならず、今日の社会の本質を知り、さらには克服のためにも上映会を。

一人ひとりが自覚を みなさんはなぜ国労に残ったのですか。大國労ではない、百四十名たらずの組織です。昔でいえば分会です。誰が役員、誰が組合員ではなく、一人ひとりが自覚をもってほしい。（国労鹿児島支部ニュース）

編集部より おっしゃるとおり。私もそう思います。これは国労だけではなく、すべての活動家・自覚した組合員に伝えることなのです。

始末書とサザエさん 最近、仕事でミスを犯すと何でもかんでも始末書を書けと言ってくる。労使協調と言っておきながらこのごろの当局の職員に対する対応はいかがなものか。ある日、テレビのサザエさんを見て思ったのだが、カツオ君が無遅刻宣言をして日々努力する。しかし、ある日遅刻しそうなになった時、先生はそれをわかって少し教室に入るのを遅らせて見逃してくれる。先生はカツオ君が日々努力しているのを知っていたからなのだが、何で職場とサザエさんがこんなに違うのか。ミスを無くすようにはどうしたらと考えながら働いている。だが、人間のことだ、どこかでミスは出る、当局にミスはないのか、あるではないか、いつばい。すみませんでしたの一言で終わってしまう。納得がいかない。サザエさんのようににはほのぼのとした職場に、人間らしい働きやすい職場がある。当局はもっと考えるべきだ。（京都・C）

編集部より 企業の労務管理は今や「社会悪」。日本的労資慣行を全面破壊し、上意下達の成果・成績主義では現場はヤル気を失わせられるばかりです。

増え続ける新宿の定住外国人 昨年十二月一日現在の新宿区の定住外国人は男一万三三三五人、女一万三八六〇人、合計二万六九九五人になりました。四月から二六八七人も増加しました。新宿は全国で最も多くの外国人が住んでいる自治体で、新宿区の人口の約十人に一人は外国人ということになります。区内に住んでいる外国人の国籍は、全部で一〇三ヶ国にもものほりです。定住外国人の上位三ヶ国は別表（省略）の通りです。韓国・朝鮮籍、中国籍が圧倒的に多く全体の約七〇%を占めています。少人数の国もたくさんあり、たった一人だけしか住んでいない国は、キューバ、チエコ、パナマなど十八ヶ国、二人だけは、ウルグアイ、コンゴ、ユーゴなど十二ヶ国、三人だけは、エジプト、レバノン、ノルウェーなど十ヶ国となっています。無国籍の外国人も十四人います。住民登録をしていない外国人の数は不明ですが、登録外国人の四〜五倍とも言われています。

（東京・Y）